

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

RFID商品管理システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、先進国を含めた世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。その目標達成に向けて、民間企業の技術やイノベーション力を積極的に役立てていくことが強く求められています。富士通グループは、かねてより、共創を通じて持続的に社会にインパクトを与える成果を生み出す、「ヒューマンセントリック・インテリジェント ソサエティ」の実現を目指して、テクノロジーを活用するとともに新たなイノベーションを創造してきました。この活動と、国際社会がSDGsの達成に向けて取り組む方向性は、一致していると認識しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs)を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



RFID商品管理システム

- RFIDプラットフォーム「商品管理システム」は、RFIDを用いた工場・倉庫・店舗間のトレーサビリティと、在庫数・販売期限を可視化する製品です。当「商品管理システム」では、店舗在庫数にあった量の工場生産・倉庫保管による物流工程の適正化・廃棄ロス／販売機会ロスの削減と、バーコードによる個別検品からRFIDによる一括検品への変更による検品・棚卸作業の業務効率化（処理時間の短縮）をCO₂排出量として評価しました。

「環境貢献ソリューション」を提供し、SDGsへ貢献します。

- 「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



RFIDプラットフォーム「商品管理システム」による業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

RFIDプラットフォーム「商品管理システム」を導入することで、適正在庫の把握による販売機会ロス削減と作業者の業務効率化を実現します。従来、工場は店舗在庫数がわからず本部から指示のあった量の生産を行っていた結果、倉庫在庫が膨大となり廃棄となってしまう商品が多数ありましたが、RFIDプラットフォーム「商品管理システム」では、工場・倉庫・店舗間のトレーサビリティと、在庫数・販売期限の可視化が可能になりました。

これにより、店舗在庫数に合った量の工場生産・倉庫保管による物流工程の適正化・廃棄ロス／販売機会ロスの削減と、バーコードによる個別検品からRFIDによる一括検品への変更による検品・棚卸作業の業務効率化が図れます。

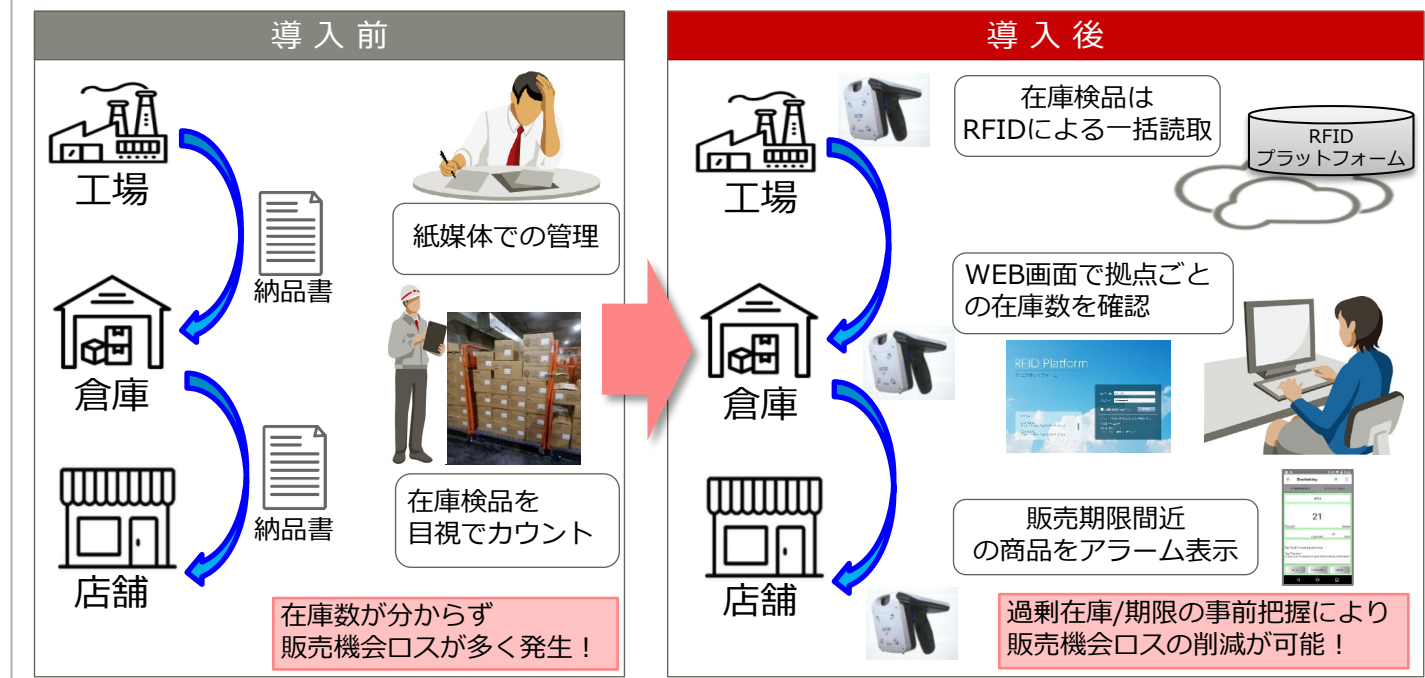
効果

- ・CO₂排出量の削減効果：約20% ※富士通フロンテック試算
- ・物品輸送量／コストの削減：
適正在庫のみを倉庫保管することで過剰在庫を抑止し、20%減
- ・検品作業時間の削減：
工場での出荷検品、倉庫での入荷／出荷検品、店舗での入荷検品・棚卸作業・期限切れチェックの効率化
【導入前】1日あたり、3.4時間程度（目視でのチェック）
【導入後】1日あたり、2.4時間程度に短縮（RFIDを用いた一括チェック）

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、お客さまの運用状況などにより結果が異なることを予めご承知おきください。

RFIDプラットフォーム 商品管理システムの導入によって、何故、販売機会ロスが削減できるのか？

- ① 各検品時に商品やカートンについてのRFIDタグをリーダーで読み取り、結果をクラウドで一括管理することで、ステークホルダー全員で現時点で、何が・どこに・いくつあるかを共有でき、過剰在庫の削減が可能です。
- ② RFID読み取り時に販売期限を表示可能なため、棚卸時に販売期限が迫っている商品の有無を確認することができ、販売機会ロスの削減が可能です。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

営業本部 フロントビジネス営業統括部

電話でのお問い合わせ：042-377-0445

Webからのお問い合わせ：<https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/privacy-product.html>